

安全資産と暗号資産

サッカー界の世界的レジェンド、元スペインのバルセロナ所属、現在ヴィッセル神戸でプレーするイニエスタが、スペインの金融当局から警告を受けた。暗号資産(仮想通貨)の取引所の宣伝に一役買ったためだ。イニエスタのような特に若者に影響力のあるスターが、リスクの高い暗号資産の取引を勧めるのは好ましくないとの理由からだ。

暗号資産の宣伝と言えばメジャーリーグ (MLB) で MVP を獲得したエンジェルスの大谷も最近、有力な暗号資産取引所と長期のパートナーシップ契約を結んだ。報酬も暗号資産で支払われるようだ。この会社は MLB の公式スポンサーであり、バスケットやアメフトのスーパースターとも契約している。その点では大谷が米国の金融当局から注意を受けることはないだろうが、それだけ米国で暗号資産は市民権を得ていると解釈できる。こうした事例は暗号資産の市場が急速に拡大していることを示す。

最近の新型のコロナウイルスの出現や米国の金融政策の見通しの変化による株、コモディティなどの急落局面でも暗号資産は意外と堅調な動きを見せている。トレーディング目的だけでなくヘッジ手段としても利用されている可能性が高い。

昨日は FED のパウエル議長が議会証言の中でテーパリングの前倒しを示唆した。テーパリングの前倒しは、続いて実施される可能性がある利上げの前倒しを想定させる。

こうなると金融市場では一段と金融引き締め期待に拍車がかかると思いきや、そうでもなかった。フェドファンドの先物レートから類推する今後の利上げの可能性を見ると、来年は 3 回(6, 9, 12 月)の利上げだが、その可能性は 1 週間前よりも低下した。

米国の 10 年債もイールドは直近で 1.49% と前日よりも低下した。ドル指数も低下した。

米国の引き締め策が前倒しになることにより景気に対する懸念が出たのかもしれない。もちろん実態が判明しないオミクロン株の脅威もある。

それにしてもインフレは一時的と主張してきたパウエルなど政策当局者と、利上げ見通しを前倒ししてきた金融市場参加者とのギャップは次第に縮まってきた。政策当局者の方が市場に近づいてきた。だが昨日市場はその歩みを止めた感じだ。

今回のオミクロン株の出現が引き起こしたリスクオフ局面では円やスイスフランなどの安全通貨や国債などの安全資産が買われた。暗号資産は決して安全資産でなく、リスクオフの時は大きく売られるのが常であった。だが今回は違った。

では暗号資産が安全資産になったのだろうか。それはないと直感的に思うが、よくわからない。オータニさんに聞いてみようか。